

令和８年度第１回幸区地域福祉計画推進会議 会議録

会議の概要

開催日時		令和８年６月２２日（月）午後１時３０分から午後２時４５分まで	
開催場所		幸区役所４階 第１会議室	
出席者の氏名	委員 （出席）	関川浩司（幸区医師会） 加藤満治（幸区社会福祉協議会） 軍司武夫（幸区民生委員児童委員協議会） 三浦ひろみ（川崎市育成会手をむすぶ親の会幸支部）	松本健一（川崎市幸区身体障害者協会） 大塚謙一郎（幸区地域教育会議） 東樹康雅（まちのおとさいわいソーシャルデザインセンター）
	委員 （欠席）	石井 雅之（幸区民生委員児童委員協議会） 滝澤富士子（幸区町内会連合会） 出口光徳（日吉商店街連合会）	
	オブザーバー	小澤竜騎（幸区社会福祉協議会）	
	事務局	小泉（地域みまもり支援センター所長） 村山（地域ケア推進課長） 一之瀬（地域ケア推進課企画調整係主任）	上久保（地域みまもり支援センター副所長） 小田（地域ケア推進課企画調整係長） 高橋（地域ケア推進課企画調整係主任）
議 事 （公開）		１ 議題 （１） 第７期幸区地域福祉計画令和７年度の実施結果及び評価について （２） 第８期幸区地域福祉計画策定に向けて （３） その他	
傍聴人の数		０名	
配付資料		資料１ 第７期地域福祉計画評価案（令和７年度） 資料２ 第７期地域福祉計画（令和６～８年度）における評価に係る考え方について 資料３ 事前照会による御意見 資料４ 第７期地域福祉計画 令和７年度の実施結果 資料５ 第６回、第７回川崎市地域福祉実態調査比較 資料６ 第８期地域福祉計画策定に向けて 資料７ 第８期幸区地域福祉計画独自広報ツールについて 参考資料１ 第７期幸区地域福祉計画 参考資料２ 第８期地域福祉計画策定に向けた基本的な考え方（市）	

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局	開会 議事録作成のための録音、記録としての写真撮影について了承、資料の確認。 小泉地域みまもり支援センター所長より挨拶。 今年度初めての会議であることから、出席者各自から自己紹介。
議題（１）第７期幸区地域福祉計画令和７年度の取組結果及び評価について	
事務局	【資料１～４に基づき説明】 第７期幸区地域福祉計画の概要（計画の体系図、そのうちの重点項目、それらに基づいた幸区での令和７年度中の取組結果及びそれらに対する評価）を説明。併せて事前にいただいた意見や質問に対しての説明を実施。新たな意見や質問をいただきたい。
大塚委員	はぴ☆ボラについて。中高生だけでなく、小学生向けのものもあったと記憶しているが、小学生何名が応募したといったデータはないのか。我々が行っているイベントのスタッフとして小学生から高校生までをボランティア募集しているが、小学生が多い。中学生になると部活動が忙しく参加者が減っていくが、小学生が増えたと残っていく中学生も多くなる。小学生も非常にしっかりしているので、絶対に力になってくれる。
事務局	小学生向けの募集はほとんどないが、小学生からの希望者が出た場合は受け入れていて、昨年度は２名。事業の内容によっては小学生ができないものもあるので、できそうなものは小学生も対象にしている。
三浦委員	「COLORS SAIWAI」はどこで放映しているのか。また、事前に告知などはしているのか。
事務局	川崎駅のアゼリアビジョンや幸区役所内のモニターなどで放映している。ショートムービーなので告知は行っていないが、YouTube でいつでも視聴できるようにしている。
議題（２）第８期幸区地域福祉計画策定に向けて【資料５～７】	
事務局	【資料５～７に基づき説明】 第６回、第７回川崎市地域福祉実態調査の結果を比較して３年間の状況変化を説明し、第８期幸区地域福祉計画の策定にあたり、市計画も含めた策定スケジュールや第７期計画から変更予定の点などを説明。新たに作成する独自広報ツールについては令和６年発行の「幸区地域包括ケアシステム推進パンフレット」をベースに検討を進めるなど特に詳細に説明。皆様の立場から様々なアドバイスや意見をいただきたい。
大塚委員	第８期地域福祉計画の冊子は川崎市と７区すべてを合わせて一冊となる理解でよいのか。また、第７期区計画の冊子作成にも携わり、内容をまとめ、表紙を変えるなど誰にでも手に取ってもらえるようにするため苦労した。区計画冊子の代わりに独自広報ツールを作成してデジタルに誘導するようだが、ページ数はどの程度を予定しているか。
事務局	第８期地域福祉計画は各区 12～14 前後のページが後ろに追加されて一冊になる予定。様々な情報を掲載しているホームページ上に誘導できるようにしたい。「幸区地域包括ケアシステム推進パンフレット」が８ページなので、独自広報ツールはこれよりもページ数は増えると思われるが具体的には調整中。一方、ペーパーレスが進んでいる中で、市としても紙を減らす方針があるのは理解いただきたい。
議題（３）その他	
事務局	今回の議題内容に関係なくてもよいので、地域の生活課題の解決のために活動していることなどがあればお話しいただきたい。

関川委員	クリニックとしての活動になるが、当施設3階をパブリックスペースとしていて、ギャラリーやコンサートを不定期に開催しているので、スペースを開放してほしいなどの依頼があれば協力したい。医師や看護師が健康についてレクチャーする健康講座のYouTubeも配信している。また、町内会への出前講座も行っているが、最近はウェブ上で実施している。コロナ前までは小学4年生から6年生に夏休みに当施設で検査機器に触れたり、薬剤師の協力で処方までの流れを知ってもらったりなど医療機関の職場体験をしてもらっていた。小学生は高学年になると感受性が高いので、その体験を通じて、医療について成長したときにもしっかり理解してもらえていたらと思いこのような企画を行っていた。
事務局	活動の広報についても協力できることがあれば、依頼してほしい。
加藤委員	A Iについて。実態調査で「誰に相談するか」という質問もあったが、若い人は周囲よりもA Iに相談することがあるようだ。本人も想定しない結果になることもあるので、扱い方も教えていかなければならない。今後、A Iとどう付き合っていくか、どのように活用していくかも考えていかなければならないが、自分でもよく分かっていない。
事務局	そうしたことも含めて、これからも議論になっていくと思う。
軍司委員	民生委員は専門家ではないので解決までつなげるのは難しいが、できるだけ多く顔を出して、気軽に相談を受けられるようにするのが一番だと思っている。しかし、それ自体が難しくなっている気がしていて、両親が共働きで、子どもも保育園に行っていて普段あまり顔を見せないということもあるが、「向こう三軒両隣」や「遠くの親戚より近くの他人」とも言うので、皆様からの話を聞きながら工夫していきたい。
事務局	これからも工夫を続けていきたい。
三浦委員	川崎市育成会手をむすぶ親の会は知的障害者の親の会で、知的障害者の気持ちを共有してもらうため、近年は啓発キャラバン隊として、市民の皆様に知的発達疑似体験や講演を行っている。6月初旬に市内の民生委員・児童委員に7区から1名ずつ参加してもらったときに、重度から軽度までいる知的障害者に対して、どのように接すればよいか質問が出た。当会の会長からは、どんな障害者でも相手が危険な状態であれば助けてほしいが、そうでないときは温かい目で無視して良いという話があった。子どもの知的障害者が騒いでいると周囲も理解できずに「親は何をやっているんだ」と親に冷たい視線を浴びせることがあるので、民生委員・児童委員にもそうした話を地域に持ち帰ってほしい。市内の小学4年生に疑似体験してもらったときも、すごく共感してもらった。社会福祉協議会にも依頼しているが、区役所でも勉強会や研修会の際にキャラバン隊の講演で協力したい。
事務局	御案内ありがとうございます。
松本委員	身体障害者協会は徐々に高齢者が多くなっているが、若い会員が増えないという実情があり、高齢者の多くは市や区のホームページを見るよりも、区役所に直接来たほうが手取り早いという感覚がある。独自広報ツールの件でも、パンフレットを見て興味持って聞いてもらえる人がどのぐらいいるのかという点にも引っかかっている。市のホームページをたまに見ると、どこを見ればよいのかわからなくなってしまうことがあるが、地域福祉計画や地域福祉実態調査の結果もホームページで公表されるのか。
事務局	地域福祉計画と地域福祉実態調査の結果はホームページでの公表対象で、現在の第7期計画はホームページ上で見ることができる。ただし、指摘のとおりわかりにくい構成と

	なっているのであれば、どこに掲載されているかわかりやすくしていきたい。
大塚委員	地域教育会議は教育委員会から委託を受けた社会教育団体で、7区と51の中学校区それぞれにあって、我々は幸区で活動している。地域福祉計画の中でもできることはやっていけばよいと思っていて、福祉の視点で言えば、学校に行けない子どもたちも増えていて、貧困化も全く解消されていない状況もあるので、対策としてフリースクールがある。行政からも補助やサポートがあれば、この地域に大勢いる様々な志を持った人を後押しできるような組織作りにもつながる。子ども食堂も幸区では行政からのきっかけ作りで広がったように記憶しているので期待している。そうした点も含めて地域福祉計画推進会議の中で発言していければと思っている。
事務局	これからも会議等での意見をお願いしたい。
東樹委員	当ソーシャルデザインセンターでは、このまちで、自分の得意なことや、何か「やってみたい」という想いのある方、また、実際に地域活動団体等をサポートしている。今回の「第7回川崎市地域福祉実態調査結果」では、「自分のスキルを活かした」、地域活動やボランティア活動の参加経験が前回から増えていた。それは、自分の得意なものを活かすなどして、表現できるものがあることによって、自分の居場所や出番が得られたと感じ、さらには、このまちにいて良かったと思えることにもつながるのではないかと。また、第8期計画の独自広報ツールについては、どのような人をメイン対象として作成するのかがポイントであると考えている。それにより見せ方も変わってくるためである。幸区では外国人住民の割合が区の総人口の4%強となっていることから、「やさしい日本語」を用いて作成することで、外国人だけではなく小学生など誰もが理解しやすいツールとなるのではと思う。そのため、どこまで噛み砕いて伝えられるかを、今後考えていければよいのではないかと。
事務局	引き続きよろしくをお願いしたい。
小澤オブザーバー	社会福祉協議会では地域福祉計画と同じ時期に地域福祉活動計画を作ることになっていて、前回の計画から市社協と区社協で一冊の冊子を作っているの、地域福祉計画もそんな風になるとイメージしている。やはり貧困の方がかなり多いと感じていて、今では毎日のように相談が寄せられる現状となっている。また、地域の担い手の高齢化、人手不足もよく聞かれることなので考えていかなければならないと思っている。
事務局	ありがとうございます。他にも意見があれば発言いただきたい。
関川委員	人口の4%が外国人ということで、当院はインターナショナルクリニックとしても、対応するツールや同意書なども準備している。川崎在住の外国人に周知される機会がなければと、観光協会や国際交流センターの所管部署にも挨拶に行った。AIについてはクリニックのホームページの会社を、前の会社ではAIで探索されないことがわかったので変えることになった。市や区のホームページもAIでどう扱われているか調べてもらったほうが良いのではないかと。
事務局	他に意見がなければ、以上で全ての議題が終了とする。 次回は8月を予定している。これをもって、第1回推進会議を終了とする。

以上